

(別紙4)

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200157		
法人名	株式会社 四季の郷		
事業所名	グループホーム 四季の郷羽津		
所在地	三重県四日市市白須賀二丁目11-4		
自己評価作成日	平成29年6月24日	評価結果市町提出日	平成29年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2490200157-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2490200157-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29年 7月 4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同施設内の訪問看護ステーションと連携をとっており、24時間安心の医療連携体制にある。また協力医による定期的な往診を受けることで、入居者には安心して過ごしていただけることができている。  
 ・同法人内の交流もあり、イベントに参加することで利用者同士の触れ合いの機会を設けている。  
 ・施設での生活が生きがいの場になるよう管理栄養士と連携をとり、食事レクやおやつレクを行うことで、一人ひとりの能力に応じて家事参加の支援を行っている。また、管理栄養士による施設独自のオリジナルドリンクを提供することで、熱中症対策を行っている。

このグループホームは「お客様」ではなく「生活の主体者」になるようあらゆる面で心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内2つ目のグループホームで、開所4年目になる。事業所周辺には工場や会社が多く、地域住民との付き合いは難しい環境にあるが、運営推進会議には自治会長はじめ民生委員、老人会長などの参加も得て、徐々に連携も取れてきている。利用者は「お客様」ではなく「生活の主体者」であるとあらゆる面で心掛けており、特に食事では「食を楽しむ」という法人創設以来の方針が貫かれており、食事レク、おやつレクと食べるだけでなく作ることも楽しみにしている。職員・利用者共に笑顔で、会話の多い食事風景である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念をグループホームでも共有し日々の仕事の中で実践している。一人ひとりを尊重し小さな変化も職員間で話し合い情報の共有に努めている。	法人理念をグループホームの理念としているが、他に「四季の郷はみんなのお家です」や「元気ですか、笑ってますか」等も共有しており、食事時でも職員・利用者に共に遠慮ない会話や笑顔が多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店街へ買い物に出かけたり、散歩中近隣の方との談話等交流の機会がある。また、施設全体での秋祭りを実施し、自治会長、老人会の方々を招待し親交を深めている。	事業所周辺の散歩時に地域の方との交流もあるが、地域のふれあいサロンに職員がボランティアで参加したり、事業所のお祭りに地域の方々を招待したりと、積極的に地域との連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	羽津地区事業所の関係作りや、定期的に行われる地域の交流施設「さろんde志氏我野」でのボランティアに月一回参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族 行政 地域の代表の方々に積極的に出席のお願いをしている。会議では運営状況や近況状況を中心に行いサービスの向上に活かしている。	2ヵ月毎に開催し、家族・行政・地域の方々に事業所の報告をし、種々の意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に毎回運営推進会議に出席していただいている。運営状況をその都度報告し、事業所のサービス向上への意見を頂いたり、疑問点等、すぐ連絡の取れる関係性を構築している。	市の担当者とは運営推進会議で顔なじみであり、介護認定の更新はじめ、分からない事があれば気軽に連絡が取れる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関は大通りに面し危険回避から施錠している。身体拘束をテーマに社内研修を実施。致し方ない時は家族に同意を求めて実践している。	夜のみベットの柵で拘束せざるを得ない時もあるが、「拘束ゼロ」を目標に社内研修をしている。玄関の施錠も、交通量の多い道路での危険回避であるが、「施錠があって当たり前」にならないよう、気を引き締めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマに社内研修を実施。知識を学習し、虐待防止や発見についての責任、意識向上の取り組みとして、職員へのアンケートを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者はいないが、制度については研修の中で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を取り説明しているが、改定の説明に関しては不十分な傾向がある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者一人ひとりの言葉には向き合い話をする時間をとっている。家族面会時には近況報告し、意見を出してもらう様に心掛けて、ケアプランに反映させている。	家族へは、毎月の「四季の郷」たよりや職員手書きのたよりで、最近の様子をお知らせしているし、面会時には近況報告し、家族とは出来るだけいろんな話をするようにしている。また利用者とは日頃の会話の中から意見を吸収している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年ごとに社長との職員面談を実施している。管理者は日常的に職員からの意見提案がしやすい関係にある。また、月2回管理会議を行い、意見を反映させている。	職員とは日頃の仕事の中で意見交換しているし、定期的に自己評価表や個人面談もある。現在人員不足気味で、職員体制の定着に苦勞している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長面談での聞き取りや、自己評価表、研修への参加実績等を参考に賞与への反映を実施している。また、それぞれの希望する労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実施や、外部の研修への職員参加を促している。新人についても、入社時の集中研修やエルダーとの担当制でOJTのフォローの体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅介護支援センター主催の地区事業所の関係づくりに2か月毎に出席、他職種の方々と交流し意見交換することでサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を入居前に実施している。また、入居時には特に意識的に入居者の様子に配慮し、本人の不安や要望を聞き出すようその都度職員への申し送りを行っているなど、関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を入居前に実施し、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスにつながるよう取り組んでいる。また、家族とのコミュニケーションを大切にし、意見要望を話しやすい雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の本人、家族面談やケアマネとの連携の中でケア内容や福祉用具等の設備など、必要な支援を見極める体制を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や昔からしてきた事などを把握し、一人ひとりが主役になる場面作りを心掛け、職員と利用者が共に支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居以前の関係性を継続できるよう、本人と家族の要望があれば、可能な限り対応している。また、本人のケアに関して家族へプラン等説明と同意を得て、共に支えていく関係づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の郵送や電話、面会など、要望があれば、自由に実施できるよう支援を行っている。外出は家族の協力を得ている。	友人・知人の来訪や、昔住んでいたところへの訪問や馴染みだった美容院へ行ったりと、家族の協力も得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守り等で利用者同士の関係把握に努めている。また、それらの情報の共有を職員間で行い、必要に応じて利用者との関係づくりに職員の介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供の実施。必要に応じて今後に向けての相談や支援の実施を提供できる関係を維持できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中でゆっくり関わる時間をできる限り作り、行動や表情から意思意向を把握できるように努めている。また、職員全体で共有している。	夕食後や部屋に一人であるゆったりとした時間があるときや、お風呂で職員と1対1になるときにじっくりと話を聞き出している。また何かあった時は意識して意見の吸い上げに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人からアセスメントを行い、生活歴の把握をし、入居後もその都度状況に合わせて継続的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や心身の状態を観察し、職員同士情報の共有をはかり、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの意向を把握し、3か月毎にケアプランを作成、介護職員による介護計画を実施。情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。	家族の意見や医師の連絡表等を念頭に、介護職員が自分の担当の利用者の介護計画を作り、ケアマネジャーも入った職員全員での会議で検討している。利用者全員が重度化しているため、検討会議でも苦勞している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人情報に記入し、毎日の申し送り等で情報の共有を実施している。また、計画作成担当者や医療機関への情報提供に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症が進行し、精神的不安定な利用者に対して傾聴ボランティアを導入した。外部の人を受け入れることで、表情は良くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係職員と話し合いながら、それぞれの入居者に対して支援の必要性に応じて地域資源の活用の充実に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人、家族と相談し、これまでの主治医を継続するか、協力医療機関へ移行する意向をくみ取り個別に対応している。また、できるだけ往診の体制を取れるよう、医療機関と連携を取っている。	家族とは十分話し合っって主治医を決めている。協力医は毎月の往診もあり、緊急時の連携も取れている。歯科衛生士の訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の訪問看護ステーションと医療連携体制を取っており、常に入居者の健康状態や医療面での相談・助言・対応を行っている。また、記録も共有し看護職のケア内容も介護と共有することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談は主に家族を通して行っているが、退院時には必要に応じ退院カンファレンスを行い、ケースワーカーや看護師との情報交換をしながら早期退院へ支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化対応の指針」を説明し、さらに終末期及び急変時の同意書にて延命を望まない旨の同意を確認しているが、終末に向けてご家族とは何度も話し合いを重ねている。	入居時に「重度化対応指針」の説明をし、終末期の延命の可否に対する希望を得ている。同一法人の訪問看護ステーションの医師との連携もあり、体制は整っている。過去に2人の看取り実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示とAEDの設置、消防署での応急手当・心肺蘇生法の講習を受講。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の日中と夜間のそれぞれの時間を想定した避難訓練を実施した。今後も繰り返しの訓練実施で全職員の知識の向上を図っていく。	消防署立会いの下、火事中心の消火・避難訓練を行っている。事業所が4階建ての3階のため水害時の心配はないが、万一の火災時の避難訓練は必要である。	近い将来、大きな地震が予想されているので、地震に対する訓練も必要である。特に夜間の職員数が少ないときの対応が重要で、職員はパニックにならないよう、日頃からの訓練をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけや態度を実践し、介護にあたるように努めている。講師を招いて職員全員が個人情報について研修を受けている。	普段の何気ない会話でも、内容や場所をわかまえるよう、プライバシーには気遣いをしている。毎年、個人情報保護についての研修を、講師を招いて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で希望を訴えられる利用者は、その都度時間を取って傾聴するが、そうではない方へは様子の変化に応じて職員から声を掛けるなど、普段から全員の思いを偏りなく聞き取ることをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のタイムテーブルはあるが、その中で入浴のタイミングや居室などでの自由時間等それぞれのペースに合わせて希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをする時には、本人が自己決定が出来るよう意思を確認しながら行っている。また、外出時には、お洒落をしたりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員が盛り付け配膳まで実施しているのが現状だが、調理はおやつ作りをレクとして実施。イベント食や毎月の特別食を提供することで外食気分を味わえることで楽しみなものになるよう支援している。また、食事形態を変更することで、食事が摂れるようになった利用者もいる。	本部の厨房で、半調理・密封真空された食材を事業所に持ち込むので、利用者の手伝いは少ないが、イベントとして食事レク・おやつレクを行っている。レクとして気軽に楽しく行えるので、利用者の参加も得て、いつもにぎやかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分量を記録し、個別の体調管理をしている。管理栄養士によりバランスを考えた献立を作成。その人の状態に合わせて食事の形態やメニューを変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアを実施。要望に応じて協力医療機関歯科の訪問診療や口腔ケアも提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し排泄パターンの把握をし、支援の必要な方にはパターンに応じたトイレ誘導を支援している。認知症の進行によりトイレ誘導を拒む利用者もいる。	排泄パターンに応じた支援で、布パンツ利用者が2名で他はリハビリパンツ利用である。トイレ誘導を拒む利用者には、繰り返しタイミングを変えて声掛けしたり、相性の良い職員が声掛けしたりして、少しずつ改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートを使用し、排便の無い場合には水分摂取の促しや運動の呼びかけを実施し、処方薬の適切な投与の調整も含め、個別に対応している。また、食事やおやつに食物繊維を多く含んだメニューの提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2グループにわけ、ゆっくり時間をとり、週3回の入浴となっている。入浴を拒む人には対応の工夫や一人一人に合わせた入浴支援をしている。又、毎月入浴剤を変え、季節感を感じてもらっている。	一般の家庭にあるような浴槽であり、1日おきに入浴している。入浴剤担当の職員がおり、利用者は毎月いろいろなお湯で楽しんでいる。6月はバラの香りの湯、7月はラムネの香りの湯である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やタイミングで就寝の時間は個々の自由に任せている。夕食後、職員を交えて茶談会を楽しむことで安眠できる利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬局から発行される個別の薬の説明書をファイルし、いつでも内容を確認できるようにしている。また、薬の保管やセット、服薬確認、心身の状態変化の経過観察と記録等、看護との連携も取りながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意欲や希望、現在の力量に合わせて、楽しみ事の支援をしている。誕生日会やボランティアによる各種イベント等の実施やノンアルコールビールでの晩酌、馴染みの傾聴ボランティアの利用継続、定期的な家族との外出等、各自にあった気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	レクリエーションの一環として四季を感じる外出を設けている。定期的に近くのスーパーへ買い物に出掛け、思いの品を購入する支援を行っている。また、家族の協力も得られ定期的な外出も出来ている。	天気の良い日の近隣の散歩の他、春・秋の季節の花見に出掛けている。一人2000円持参で近くのショッピングセンターに買い物に出掛けることもある。また、家族の協力を得ての外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の許可を得たうえで、各自お金を所持している利用者もいる。スーパーなどへの外出時にはそれぞれが支払いをし、必要に応じて付添等の支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に利用者の要望に、応じて電話や手紙のやり取りを行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階にあるため、風通し、採光も良くリビングを中心に利用者が集い、憩いの場となっている。車椅子・シルバーカー利用者が増えたことで、席決めには十分な配慮を心掛けている。	居室に囲まれた形でリビング兼食堂があり、テレビ・ソファ・テーブルが適当に配置され、そこが利用者・職員の憩いの場になっている。壁面には、季節感のある手づくりの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席では一人で塗り絵などの趣味の作業をしたり、ソファで並んで談笑をするなどの各自の過ごし方に沿えることもあるが、共有のリビングではやはり独りになりにくい状態である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンス等の据え置き家具はあるが自由に自宅から家具や花を飾る等本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	各部屋には洗面台があり、がっちりとした椅子が置いてある。整理整頓されたスッキリ感の部屋もあれば、ある程度その人らしさの出た置物や飾り物がたくさんある部屋等、それぞれ工夫されている。部屋の掃除は生活支援担当がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全優先の観点から玄関、窓の一部施錠がある。また、それぞれの薬はすべて鍵付きのケースで施設管理するなど、できるだけ本人を尊重しながら危機管理を実施するよう心掛けている。		